

エグゼクティブサマリー

IoTが導く
未来

ボーダフォンIoT普及
状況調査レポート2019
The future is exciting.
Ready?



vodafone
business

ボーダフォンIoT普及 状況調査レポート2019 概要

IoTを利用する企業は増えています。

2018年に行った調査レポートと比較すると、IoTを導入する企業は、29%から34%へと急速に増加しました。その一因として、IoTを導入しやすくなつたことがあげられます。現在多くの企業では、一からスクラッチで構築するのではなく、費用対効果の高い既成のIoTソリューションを導入する傾向があります。IoTを導入している企業の74%が、「IoTを導入していない企業は5年以内に競争から脱落するだろう」と考えています。競合他社に差をつけられる前に、今すぐ行動を起こす必要があるでしょう。

IoTはあらゆる産業分野に変革をもたらしています。

私たちは数多くの産業分野の企業を対象に調査を行った結果、IoTは広範囲にわたって多大な影響をもたらしていることがわかりました。例えば、自動車業界におけるIoT導入企業の86%は、「収益の増大」や「自社製品の差別化」のために、すでにIoTを利用している、または利用することを計画しています。また、保険業界では84%のIoT導入企業が「自社のビジネス戦略はIoT導入によって変革した」と回答しています。全体でみると、IoT導入企業の60%が、「今後5年間でIoTによって自分の業界が完全に変革されるだろう」と述べています。それはあなたの業界かもしれませんし、それはもう始まっているかもしれないのです。

メリットは計り知れません。

IoT導入企業の95%はすでにそのメリットを実感しています。半数以上(52%)は、「IoT導入による効果が非常に大きかった」と回答し、79%は「IoTなしでは不可能ともいえる前向きな結果をもたらした」と述べています。例えば、オペレーションコストの削減(53%)、データ収集の向上(48%)、既存の仕組みからの增收(42%)など、メリットはさまざまな側面であらわれています。IoTによるコスト削減をあげた企業では、平均18%のコスト削減を実現しています。収益が増加したとする企業では、平均19%の収益増加を実現しています。

34%

の企業がすでにIoTを導入——輸送、製造、金融サービスなどの業界ではそれ以上の割合で導入が加速。

60%

のIoT導入企業が、「IoTが5年以内に自分の業界を変革する」と回答

76%

のIoT導入企業は、「IoTプロジェクトは必須だ」と回答しています。また12社に1社では、「今ではビジネス全体がIoTに依存している」と回答しています。

運送およびロジスティクス企業は、IoTによって車両や貨物、資産のロケーションをリアルタイムで追跡できるようになるため、燃料の使用量の抑制、遅延の回避、問題の迅速な対応が可能になります。

IoT普及状況調査レポートがあなたの疑問に答えます

87%

の IoT 洗練度が高い企業が、「非常に大きなリターンがあった」と回答

どうすれば IoT からもっと多くを得られますか？

Vodafone は、数千もの企業との IoT プロジェクト開発のための共同作業を通じて、最良の結果をもたらす秘訣を多く学びました。そのようにして得られた知見を活かし、「IoT 洗練度指数」を利用した分析方法を考えつきました。洗練度指数が低い IoT 導入に向けて歩み始めたばかりの企業のうち 17% は、「得られたメリットには大きな意味があった」と答えていますが、洗練度指数が最も高い企業では、その数値は 87% にものぼります。

25%

の企業がすでに LPWAN を利用し、52% の企業は 5G の将来的な利用を検討

適切な通信方式を選ぶためには？

現時点でもっとも一般的に使われている IoT 向け通信方式は携帯電話通信(4G および 4G+ を含む)です。Wi-Fi(69%)、固定回線(33%)、LPWA- 省電力広域ネットワーク(25%)がそれに続いています。ところが、IoT 活用において洗練度指数が高い企業では、平均して 3 種類の通信方式を併用する選択をしています。これらの企業では、IoT プロジェクトによって必要になる要件が異なることを理解しているからです。また、半数以上(52%)の IoT 導入企業は、将来を見越して 5G の利用を検討しています。

96%

の IoT 洗練度指数の高い企業が、彼らのサプライヤーが IoT セキュリティリスクを効果的に管理するスキルを持っていることを確信

セキュリティはどう考えるべきですか？

IoT 導入企業のうち 84% は、「セキュリティに取り組む必要はあるが、セキュリティを、イノベーションを諦める言い訳にすべきではない」と回答しています。IoT 導入企業は開発段階でのデバイスの検証(40%)、IoT セキュリティの専門家を採用する(39%)、デバイスを認証する(37%)、などさまざまな手段を用いてデバイスを保護しています。また、IoT 洗練度指数の高い企業のうち 96% は、彼らのサプライヤーが IoT セキュリティリスクを効果的に管理するスキルを持っていると考えています。つまり、セキュリティ対策はサードパーティから協力を得ることも一つのアイデアです。

必要な専門知識はどこで得られますか？

IoT 導入企業の 60% は IoT の専門チームを組織しています。多くのケースでは、この専門チームは複数の部署にまたがって機能しています。これは、ビジネス戦略や、競合企業との差別化のために IoT が担う役割が重要であると企業が考えていることを裏付けているといえるでしょう。また IoT 導入企業は自社の組織だけではなく、外部からのサポートも求めているようです。IoT 導入企業のうち 79% が、「過去 1 年間で、IoT プロジェクトを遂行または管理するために、パートナーを利用するが増えた」と述べています。さらに、IoT 活用において洗練度指数の高い企業のうち 60% が、IoT の専門知識についてサードパーティに依存していると回答しています。

さらに知見や助言を得るには、IoT 普及状況調査レポート全文をお読みください。

vodafone.com/iotbarometer

ボーダフォンIoT普及状況調査レポート2019について

本レポートの1,430名の回答者は、幅広い地域、業界、企業規模、職務役割から厳選されたメンバーによって構成されています。本年の調査回答者では、前年度と類似のメンバー構成をなっているため、同一条件での比較分析を可能にしています。さらなる知見を提供するため、今年度はさらに328のIoTアダプターを調査しました。これにより、アダプターがどのように考え、行動しているかについて、より深く掘り下げることができました。また、当社のIoT先進化指数を検証し、実現したメリットとの相関を分析することも重視しました。

vodafone.com/business/iot

2019年ボーダフォングループ。本書はボーダフォンが機密文書として発効するもので、事前にボーダフォンの書面による許可を得ることなくその全部または一部を複製することは禁止されています。ボーダフォンのブランド名およびロゴはボーダフォングループの登録商標です。本文中に述べられている他の製品名および社名は、個々の所有者の登録商標です。本書中に含まれる情報は、印刷時点で適正なものです。この情報への依存は受益者の責任において行われるものとします。ボーダフォングループの全メンバーは、この情報の利用についていかなる法的責任を負うものではありません。この情報は変更されることがあります。各サービス内容は、ボーダフォンによって予告なく修正、補足、削除されることがあります。すべてのサービスは契約条件の対象となります。サービス契約書の写しは請求によって取得できます。



**vodafone
business**